

市内在住子育て世代へのインタビュー概要

1. 取組みの背景

総合計画の見直し作業と並行して、庁内チームが少子化対策の検討を進めるなかで明らかになった本市独自の課題に焦点を当てて、市民インタビューを実施（令和7年7月31日）。

2. 本市独自の課題とインタビュー形式

課 題：子育て政策は充実しているが、家を建てる段階で近隣市へ転出する未就学児を持つ夫婦が多いという現状があり、10年前からの課題
聴取対象：家を建てる前で未就学児がいる子育て世代

3. 聴取者の概要

聴取者数9名（女性6名、男性3名）を対象にグループまたは個別で実施
全員が移住者（県内から5名、県外から4名、うち子育てが移住のきっかけ3名）

4. インタビューの概要

（1）備前市の子育て支援

- 「家庭育児応援金（子1人月額上限23,000ポイント支給）」、「出産・子育て応援給付金（妊娠時と出生時に5万円を給付）」、保育料と給食費の免除、18歳までの医療費無料など備前市は子育て支援が非常に充実している。
- 新婚向け家賃補助も備前に移住してきて利用したがとても支援になった。
- 支援策は単発的ではなく、定住に繋がるようなものが重要だと考える。
- 家賃補助があったので調べてみたら、近隣自治体のなかで移住者に優しいと感じた。
- 子育て支援センターや地域のか（しずちゃんちなど）が充実しており、親子のネットワーク形成に役立っている。
- 行政だけではなく民間も含めて子育て支援を頑張っていることは、印象的な部分であり、移住する後押しになった。
- 手厚い子育て支援は、移住後に知った。

（2）住居について

- 備前市に定住したいと考えているが、理想の住まい（特に一軒家の賃貸、3L以上のファミリー向け）が見つからないことが最大の悩み。
- 若い世代の人を残したい、誘致したいのであれば、家が第一優先、家があれば、私も残りたい。本当に残りたいくて。悩んでいる人が多数存在する。
- 家賃補助が終了するタイミングで3Kの賃貸物件を探したが、全く見つからず、需要と供給が釣り合っていないと感じた。

(3) その他

- 備前市に移住したのは、田舎で自然のある場所で子どもを育てたかったことと小規模な学校がある環境を求めている。
- 小学校の新入生が極端に少ない学校があるなど、子どもの友達作りなどの機会が減少することを心配している。
- ビーチラスが(子育てする親が集う)いい拠点になるのではないかと思う。
- 行政の力も重要だと思うが、備前市には当事者として変えていく、作っていくというエネルギーがある人たちがいることが非常に魅力的である。
- 地域全体として備前のまちの良いところをアピールしてもらいたい。

(以 上)